

近世哲学研究

第 1 号

祝 辞	—— 酒井 修	1
ハイデッガーにおいて哲学を —— 現存在の現象学的存在論考究 ——	—— 田中 敦	3
カントと初期フイヒテとの接点	—— 北岡 武司	27
義務論としてのカント倫理学 —— 功利主義との対比 ——	—— 蔵田 伸雄	49
仮象と反省 —— ヘーゲルの矛盾概念の理解のために ——	—— 山脇 雅夫	69

1994

Epistola VII

京大・西洋近世哲学史懇話会

編集後記

京大・西洋近世哲学史懇話会が発足したのは、昭和六十二年七月であった。それは京都大学西洋近世哲学史講座の卒業生と在学生を中心にして、広く西洋近現代の哲学思想に関する研究成果の発表・討論を通じて相互の研鑽を深めようとする純粋な学意欲に基づくものであり、爾来、年間三回の研究会の開催と、また年一回の機関誌刊行を続けてきた。機関誌「エビストラ」はすでに六号を数えている。

会員のなかから、研究活動の一層の促進のための本格的な学術雑誌の刊行を望む声もすでに久しく聞かれたが、ようやく時機純熟し、昨年来の諸準備を経て、今ここに、永年の念願を実現する新雑誌「近世哲学研究」の第一号の発刊を見た。本会がまた新たな発展の一段階を画することになったことを、会員諸氏とともにまず率直に喜びたい。

本号には、名誉教授の酒井修先生から巻頭の辞を

いただき、依頼論文と応募論文のそれぞれ二篇を取ることができた。執筆の諸氏に厚く御礼を申し上げるとともに、応募論文の審査に御協力頂いた四名の方々の御厚意にも深謝いたしたい。編集委員会としては、本誌が何よりも全会員の御賛同と温かな御援助のためものとして実現したことを改めて銘記し、感謝とともに、これを次号以降の充実への活力としたい。今後の御支援を切に念ずる次第である。

編集委員会		代表
委員	北岡 武司	田 垣
	倉田 隆	
	田中 一馬	
	橋本 武志	
協力	安藤 正人	
	子野日俊夫	
	早瀬 明	
	福田喜一郎	

執筆者紹介

酒井 修	川崎医療福祉大学教授
田中 敦	国際基督教大学教授
北岡武司	島根大学助教授
蔵田伸雄	京都大学研修員
山脇雅夫	愛知大学非常勤講師

(執筆順)

近世哲学研究 第1号

1995年3月25日発行

編集・発行 京大・西洋近世哲学史懇話会
編集代表 藺田 坦

〒606-01 京都市左京区吉田本町
京都大学文学部西洋近世
哲学史研究室内
TEL (075) 753・2811
振替 01080・3・31430

印刷所 協和印刷株式会社
〒615 京都市右京区西院清水町13
TEL (075) 312・4010(代)

定価 1200円 (本体 1166円)

STUDIES
in
MODERN PHILOSOPHY

No. 1

Osamu SAKAI	: Gratulatio	1
Atsushi TANAKA	: Bei Heidegger philosophieren lernen	3
Takeshi KITAOKA	: Berührungspunkt der kritischen Philosophie Kants mit der frühen Wissenschaftslehre Fichtes	27
Nobuo KURATA	: Kants Ethik als Deontologie —— im Gegensatz zum Utilitarismus ——	49
Masao YAMAWAKI	: Schein und Reflexion —— eine Interpretation eines Kapitels der Wissenschaft der Logik Hegels ——	69

1994

Epistola VII

Published by
The Society for The History of
Modern Philosophy
at Kyoto University